

# 上質は、世代を超える

## その道の達人が 子どもに 伝えたい名品

子どもたちが感性を育み、健やかに成長するために必要なものとは。

デザイン、食、ファッションの世界のプロフェッショナルが選ぶ名品には、

大人にも響くメッセージが込められています。

撮影：桂太朗 取材：文：仲川僚子



## 優しく揺れる バウンサー

「ビジョン」のウギー

深澤さんがデザインしたバウンサー。大人の動きを目で追える角度で赤ちゃんをホールド。「自分の動きに合わせて揺れるのもポイント」。生後1カ月～2歳半まで使用可能。

7,500円 [約H50、56、62×W43×D74.5cm (展開時)、最大体重 15kg以下]  
「ビジョン」 tel.0120-741-887



## 遊べる石

「ジャクエツ」のオモチ イシ  
その形から、子どもたちが思わず触れて、登って、滑って遊びたくなる深澤さんデザインの遊具を、イサムノグチと関わりが深い和泉屋石材店が厳選した石材で製作。

[約H34.8×W100×D100cm]  
©ジャクエツ jakuets.co.jp

## 深澤直人さん

「プロダクトデザイナー」

自然な動きを引き出し、人生を豊かにする物たち

「ごく自然な動きに、人と物とのよい関係性は表れている」。プロダクトデザイナーとして、常々そう考えています。その関係性の最適解を出すのが僕の仕事です。例えば僕が「ジャクエツ」と製作した「オモチ」は、つるっとした見た目と形から、子どもは思わず触りたくなります。吸いつくような質感なので登ってみたくなり、上に立つと、なだらかな部分を滑り降りたくなる——すべてが自然なんです。

また、人が意識せずとも気に入ってしまうのも使ってしまうのが「愛らしい物」。中川原信一さんの手提げ籠の丸みある形状は、年齢を問わず心引かれるものがあります。「この作家さんはひとりりで山に入ってあけびの蔓を採取して、それを材料に籠を……」と大人が語れば、そこに物語が生まれます。

僕の子育て経験が反映されているの「ウギー」。娘が生まれたときはアメリカにいて、ダイニングであやしながら仕事をしていました。子どもは大人と目が合うと機嫌がよく、体を揺らすことで、家族の参加意識が芽生えるんです。

僕がいまお話ししたことは、美術用語でいうと「アフォーダンス」。環境が人間などに与える意味を指す言葉です。例えば椅子の背もたれに自然と上着を掛けるのも、アフォーダンス。つまり、そのときに自分が見つけたいちばんいいものや美しいものをピクアップしていく働きです。子どもがもつその機能を上手に刺激してあげることが、より豊かな人生へとつなげられるのではないのでしょうか。

ふかさわなおと ●1956年山梨県生まれ。多摩美術大学卒業後、渡米。96年帰国。日用品から建築まで幅広くデザインを手掛ける。日本民藝館館長。幼少期は体が弱く、家で本作「絵を描く日々」。「真実は何を考える子」だったそう。



## 姿勢がよくなる キッズチェア

「ジャクエツ」のピッコラ  
シンプルながらやわらかい曲線で構成されたフォルムで、子どもが思わず座りたくなる深澤さんデザインの乳幼児用椅子。腰かけるだけで自然と背筋が伸びるように設計。

12,100円 [約H38.8×W32.7×D30.2cm 座面高28cm]  
©ジャクエツ jakuets.co.jp

## 自然素材の籠

中川原信一さんの手提げ籠  
あけびの蔓で編まれた籠は、秋田県横手の職人、中川原信一さんによるもの。「サイズ違いも持っている愛用中。コツコツと物を作る職人仕事を子どもに伝えられる品」

写真は高さ5寸サイズ26,400円  
©Art+stellas 器物家  
tel.03-3393-4448



## 本物の塗り碗

「山中塗」の碗

大人のものより小ぶりに作られた山中塗の塗り碗。深澤さんは出産祝いにこういった子ども用の碗を贈ることが多いそう。「毎日使う食器こそ、本物を使うことが大切」

私物 [約φ10×H6cm]



## 美しいミニカー

「プレイフォーエバー」のスピーディー ルマンレッド

クラシックカーをモチーフにしたイギリス生まれのミニカー。「何より質が高くてフォルムが美しい。そういったものこそ、子どもは手に取って遊びたがるものです」

5,280円 [約H6.2×W17×D8.8cm]  
©ジオジャパン tel.0120-610-613

## 優しい色の食器

「ミナベルホネン」の食器  
chouchoシリーズ

プリントではなく、凹凸の陰影により柄を浮かび上がらせるなど、料理を引き立てる本物志向の半磁器製食器。ニュアンスに富む色も魅力。「壊れない」より「大切に使う」が感じられる物を目指しました

プレート2,090円[φ17.5×H3.3cm]、  
ボウル1,980円[φ11.7×H5cm]、  
カップ1,760円[φ7.6×H7.5cm]  
©ミナベルホネン  
tel.03-5793-3700



## 創造力を育む 積み木

「カブラジャパン」のカブラ

H12×W2.4×D0.8センチのワンサイズ  
の板の積み木。「決まり事がないからこそ自由な発想力で遊べます」。写真は紹介商品のほか、別売りのカラーカブラを使用している。



20,130円[280ピース・アートブック1冊付き] ©カブラジャパン  
tel.03-5615-8315

## 身体性を 刺激する遊具

「ジャクエツ」のキヴィと  
バードインザネスト

浜辺で見つけた石のような形の「キヴィ」(下)、ステップ代わりの凹凸を自由なルートで登れる「バードインザネスト」。「子どもらしさ」の固定観念からあえて外した色合いを選びました

「バードインザネスト」(上)[約H93.0×W373.8×D200cm]、  
「キヴィ」[約H60×W152.5×D125.7cm]

©ジャクエツ jakuets.co.jp



## 読み聞かせ用の 椅子

「レミングハウス」のララバイ

建築家の中村好文さんがちひろ美術館のためにデザインした読み聞かせ用の椅子。「背もたれも座面も親子が寄り添うように設計。形が用途を導いたデザインが素敵です」

©レミングハウス  
tel.03-5754-3222



写真提供:ちひろ美術館

皆川明さん「デザイナー」  
物としつかり向き合い  
想像力を育んで

子どもには用途のある物だけではなく、想像力を育むような玩具や物に触れてほしいと思っています。例えば「カブラ」という積み木はワンサイズの板でシンプルだからこそ、自由な発想で形を作ることが出来ます。今年初めて手掛けた遊具は、子どもの想像力に任せるようなデザインに。子どもには、物の息遣いも感じてほしいのです。子ども用食器は割れないようにプラスチックが選ばれがちですが、私がデザインした物は、あえて半磁器製にしています。大切に使うことはもちろん、ほかの物についても修理やリメイクを考えるきっかけになるかもしれません。想像力と手によって形を作り、未来の思考の可能性を開く。物と向き合う。よき物との出会いは、大人の世界も広げてくれるでしょう。

みながわあきら●1967年東京都生まれ。テキスタイルデザインを中心に、日常に寄り添うデザイン活動を行う。子どものころは釘を使わず建物を造る宮大工に憧れた。人の知恵から生まれた技術の思いは、いまも変わらぬ。